

謂ふべし

尙第二期計畫の部分竝復興計畫に基く二線増設も已に一部は工事中にして殘部も近く一齊起工の筈なれば東京上野間に遠行列車の走行を見るも近きにあるならん

第二線路

今回使用を開始したる線路は東京上野間二哩十七鎖五節にして各驛間哩程左の如し

東京間	六二、四六 ^鎖
神田間	三六、九九 ^鎖
秋葉原間	四七、五五 ^鎖
御徒町間	三〇、〇五 ^鎖

線路中心線は東京驛構内より直線にて北方に出て外濠附近に於て一度四十一分

十四秒の交角を以て右折し神田柳町に於て十三度〇分の交角を以て左折し秋葉原驛に至り驛中心に於て兩國御茶の水線と交叉し更に〇度三十四分の交角を以て右折し再び八度三十七分二十秒の交角を以て右折し下谷仲御徒町に於て七度九分の交角を以て左折し在來貨物線に沿ふて進み上野町に於て十六度二十七分四十秒の交角を以て左折し貨物線と岐れ更に五條町に於て三十七度三十六分の交角を以て右折し上野驛構内に達す

勾配は大略現在地盤に準據し架道橋最下部をして吳服橋通、神田柳原通間は十四呎同佐久間河岸通より上野大通間は十五呎の頭空を保たしめたり其結果錢瓶町橋より百四十分の一勾配を以て上り本銀町にて三百五十分の一勾配に變じ千代田町に於て水平となり更に黒門町より三百三十分の一勾配を以て上り柳町に於て三百分の一勾配に變じ秋葉原驛構内に於て再び水平となり切通しより百五十分の一勾配を以て上り五條町に於て水平となり上野大通を越えて上野驛構内に入り三百三十分の一勾配に變じ續いて四十分の一勾配となり上野驛東端に於て在來線路高に合す

計畫線路數は復興計畫に基く二線を合し東京、佐久間、河岸間電車線、四線、汽車線二線の六線(中央線二線を除く)にして秋葉原、上野間は同上の外貨物線一線を加へ七線とす、右の内已に築造を了りたるもの東京、柳町間四線、路柳原通、上野大通間二線乃至五線路にして今回開通したるは以上の内二線とす

軌道中心間隔は東京驛、錢瓶町橋間は十一呎(三、三五米突)復々線間隔十三呎一吋二分の一(四、〇米突)錢瓶町橋、秋葉原驛間十三呎復々線間十四呎、秋葉原、上野間は十二呎復々線間隔十三呎にして線路中心より橋梁縁端(版桁を除く)迄の幅は左右八呎に築造せり故に東京、神田間に於ける現在橋梁幅員は普通の箇所(六線分)に於て八十三呎、神田、佐久間、河岸間(四線分)に於て五十六呎、秋葉原、上野間は(五線分)約七十一呎の幅員を有せり線路の兩側には幅二間(東京、柳原、河岸間)及幅三間(佐久間、河岸五條町間)の道路を設け附近居住者並に橋下利用者の通行に供したり

第三 用地

東京、上野間高架線建設に要する土地の内東京驛より柳原河岸に至る部分は東京

萬世橋間用地と共に明治四十三年中買収に著手し同四十五年之を了したるも神田川以北即ち佐久間、河岸、上野間所要地は大正八年十月に至り神田、柳原、河岸間に於ける一部増用地を併せ買収に著手し同十一年四月終了せり而して佐久間、河岸、上野間に於ける買収土地面積一萬二千九百九十六坪五合六勺にして買収價格二百三十四萬六千六百圓地上物件移轉費二百六十五萬三千四百圓此の買収關係者千七百名(借家人を含む)の多數に上りたるも土地收用審査會の裁決を受けたるは僅に二十四名に過ぎず極めて良好なる結果を得たり

第四 工事概況

工事施行上並に整理上の便を圖り本區間を左の如く七工區に區分せり

第一工區 東京驛より日本橋區本銀町一丁目六番地に至る

第二工區 日本橋區本銀町一丁目通より神田區黑門町に至る

第三工區 神田區東松下町より同區柳原河岸に至る

第四工區 神田川より下谷區練堀町に至る